

1995年に修士論文を物性研究に載せていただいてから22年が経ちました。その間、2004年から個人的に物性研究の定期購読を始め、2006年4月から各地編集委員になりました。こうしてふりかえってみると物性研究との付き合いも長く、編集委員になってからでも11年経ってしまいました。この間に編集委員としてした仕事といえば修士論文の投稿を専攻に呼びかけたことぐらい。この時は、ある学生の修士論文を投稿してもらえそうになったのですが、論文として未発表のデータがあるということだけでけっきょく投稿してもらえなかったような記憶があります。こういう事情があると、投稿を呼びかけるのも難しく、呼びかけをするのもそれっきりになっています。

さて、物性研究が冊子媒体をやめて電子媒体に切り替わってから5年ばかりたちます。冊子のころは月に一度届いていたのでどうしても目に入り、少なくとも目次ぐらいには毎回目を通せたのですが、電子媒体に変わってからは、発行頻度も変わったこともあるでしょうが、なかなか目につかなくなってきました。もちろん電子メールでのアラートは届くのですが大量にとどく電子メールの中に埋もれてしまって読み飛ばしがちになります。研究室の博士課程の学生に聞いてみても、物性研究という雑誌は知っているし、冊子媒体のときの論文をコピーしたことはあるとは言いますが、定期的に目次をチェックしているようでもなく、どうも最近読者の目に届きにくくなっているような気がしています。

これらの問題をなんとかするのは編集委員の仕事でしょう。物性研究を個人的に定期購読していた者としても、また各地編集委員でもある私としてもなんとかしたいところではありますが、良いアイデアも浮かばず。いったいどのようにしたらいいのでしょうか？

(SY)